

# 第8回入山辺地区通学合宿

第8回入山辺地区通学合宿が8月28日(木)～30日(土)までの2泊3日の日程で美ヶ原少年自然の家にて行われ、4年生～6年生の22名の児童が参加しました。昨年は台風の影響により中止となったため、2年ぶりの開催となりました。

1日目の交流・体験は星空観察会を行い、橋倉町会の小出公民館長にご説明をいただきました。雲が被ってしまう時間もありましたが、望遠鏡での月の観察は全員が「すごい」と声をあげるほどでした。後半には薄っすらと天の川も観察することも出来、貴重な体験となりました。

2日目の夜はキャンプファイヤーです。

6年生が火の神様から火をもらい点火を行いました。入山辺地区で活動しているバンド「エリアカ+ (プラス)」の皆さんからも2曲を披露いただき、司会の中学生の皆さんと一緒にキャンプファイヤーを盛りあげていただきました。また、大学生ボランティアの皆さんが企画したゲームもとても楽しく行うことができました。

最終日には入山辺里山辺財産区、犀川漁協の皆さんのご協力のもと薄川での稚魚の放流、栓の湯の入浴体験を行いました。そして、昼食のカレーづくりは火起こしから行い、最後まで楽しむことのできた2泊3日となりました。



令和7年9月1日現在

世帯数	832戸
男	848人
女	870人
総人口	1,718人

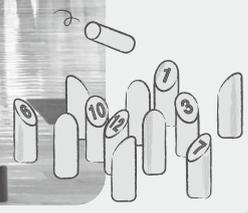


地域の掲示板



## 中学生と楽しむ日! In 美ヶ原少年自然の家

7月30日(水)「中学生と楽しむ日」を開催し、7名の中学生が参加しました。午前の部は入山辺の南東端に位置する「三峰山」に行きました。天候に恵まれ、綺麗な景色を見ながら、地区の皆さんと一緒に山頂を目指しました。山頂では上手町の古田町会長、入山辺記念林協議会の内城会長から説明をいただき、新たな地区の魅力に気づくことが出来ました。お昼は地区の皆さんとバーベキューを行い、午後の部は「するじゃん会」特製の室内用モルックを使い、混成チームでの対戦を楽しみました。



ぼくの友達



山辺小学校 6年生 やひろ 陽尋さん 深井 陽尋さん

ぼくは5年まで、自分の事ではっきりと特定の友達がいませんでした。でも、心のどこかでさみしさを感じていました。

5年で新しいクラスになり、少しずつ友達が声をかけてくれるようになりまし。一緒にマンガを書いたり、ドッジボールをするようになりまし。僕は一緒にいてうれしくなりまし。

6年になり、初めて友達が自転車であってくれた時はとてもうれし。家が遠い友達とも教文で待ち合わせをして、キャッチボールをまし。

僕は友達といふ楽しさを知りました。自分一人の世界から出て、新しい友達を作ること自分自信がまし。僕の居場所がまし。ぼくはこの居場所をこれからも大切にしたいです。



我が町会の自慢!

橋倉町会

卯・酉の年に行われる橋倉諏訪神社の御柱祭は、町会30戸と出身者・関係者が集まり、伐り出しから、建御柱までほぼ人力だけで執り行われます。「小さな村の盛大な御柱祭」は自慢の一つです。少子高齢化が進む中、橋倉の文化や歴史に目を向けてくれる小・中学生がいます。小学生の井口哲志君は昨年「小さな村の御柱祭」と題し、なぜ御柱をやるのか?など12の謎を解き明かしています。中学生の武井翼君も昨年「橋倉の歴史」と題し、橋倉中の史跡・文化財を見て回り良く調べ、冊子にまとめまし。この二人の研究を記事だけでは伝わらないので今年11月の文化祭に出展まし。是非ご覧ください。

(公民館長 小出公英)

3. 橋倉諏訪神社と山の神

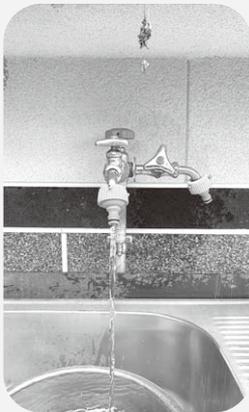
橋倉諏訪神社には、建南方万葉命という神様が祭られている。創立年代は不明であるが、金華山城主小笠原氏の守護神であったといわれ、本殿の背面には小笠原氏の小紋の三階菱が刻まれている。また、本殿裏にある石灯籠には、宝暦七年(1757)の銘がある。卯年、酉年には御柱祭が行われる。

山の神は、山に入って仕事をしる者を守る神様である。山で仕事をしる人が多かった入山辺地区には山の神が数多く祀られている。橋倉諏訪神社境内右奥にあるその祠がある。

上：橋倉諏訪神社 下：本殿背面三階菱 山の神



武井翼君の研究 (一部)



写真②



写真①

千手・駒越町会

ありがたい「山の水」 千手常会にはたいそうの昔から沢から引かれた山の水が有ります。急な山道を登ること30分(約1.5キロ)の場所に取り入れ口(写真①)が在ります。上下水道が入るまでは飲料水としても使われてまし。現在家庭菜園、畑作、洗車にと多用用途で使いたい放題と水道料金が高い松本市の中にあっては大変ありがたい存在です。各戸には山の水専用の蛇口(写真②)が設置されてお日毎その恩恵に与っています。過去どんなに日照りが続いても水涸れは一度もありません。これは水路を引いてくれた何世代も前の祖先の方々の努力のおかげであり感謝の気持ちをもつて山の水の維持管理を続けていきたいと思っています。(公民館長 赤羽 正)

親子ひろば

「第35回親子ひろば」が7月26日(土)に開催され、約250人が参加まし。ニジマスのつかみ取り、すいかわりなど多くのこどもで賑わまし。

